

# 平成22年度 世羅町財務書類の概要（普通会計ベース）

現在の地方公共団体の会計制度は、1年間の収入と支出の現金の流れは分かりやすくなっていますが、所有する資産や借入金などの負債、行政サービス提供のための経費（コスト）などの情報が不足しています。この不足している情報を補うため、国から企業会計的な手法を取り入れた財務書類（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）の整備を求められました。

世羅町では、総務省が示した財務書類の2つの作成方式（基準モデル、総務省方式改定モデル）のうち、総務省方式改定モデルにより平成22年度決算分の財務書類（普通会計ベース、連結ベース）を作成しました。

## 普通会計財務書類から、次のことが分かりました。

町民1人当たりの資産は280万9千円（前年度 274万6千円）  
 町民1人当たりの負債は100万9千円（前年度 107万9千円）  
 平成23年3月31日現在で町が所有している資産のうち、将来世代の負担（負債）で賄われている割合は35.9%です。  
 町民1人当たりの行政サービスに係る経常的な経費（経常行政コスト）は52万2千円（前年度 55万6千円）

平成22年度末住民基本台帳人口 17,984人

## 貸借対照表

地方公共団体の会計は、土地や建物、現金などの資産の所有状況や、資産を得るための負債の状況は把握しにくくなっています。貸借対照表はこれらの資産や負債などをまとめたもので、財務書類の中心となるものです。

資産 505.2億円	負債 181.5億円
町の所有財産の内容と金額	町債（借入金）や職員の退職金など将来の世代が負担する金額
〔内訳〕	
1. 公共資産 451.1億円 道路、学校、庁舎など	
2. 投資等 24.5億円 基金、出資金、貸付金など	<b>純資産 323.7億円</b>
3. 流動資産 29.6億円 現金、預金、未収金など (うち歳計現金 4.6億円)	現在までの世代が既に負担してきた金額

## 「普通会計」とは？

地方公共団体ごとに各会計の範囲が異なり一般会計だけでは比較分析ができません。このため、全国統一の基準により一般会計とそれに準じた特別会計を合わせたものを普通会計といいます。世羅町の普通会計の対象は、現在、一般会計のみです。

## 純資産変動計算書

町の純資産（正味の資産）が1年間でどのように増減したのかを示しています。

期首純資産残高 303.9億円

平成22年度変動額 19.8億円

〔内訳〕	
1. 純経常行政コスト	91.0億円
2. 経常収入	113.2億円
3. 臨時損益	2.4億円

期末純資産残高 323.7億円

## 資金収支計算書

町の1年間の現金の出入りを3つの活動区分に分け、整理したものです。

期首資金残高 4.4億円

平成22年度増減額 0.2億円

〔内訳〕	
1. 経常的収支	40.7億円
2. 公共資産整備収支	9.5億円
3. 投資・財務的収支	31.0億円

期末資金残高 4.6億円

## 行政コスト計算書

町の行政活動は、資産形成につながらない福祉や教育などの人的サービスや給付サービスの提供などが大きな比重を占めています。行政コスト計算書は、1年間にこれらのサービスに係る経費（コスト）と、そのサービスの直接の対価として得られた受益者負担を収益として整理したものです。

経常行政コスト(A) 93.9億円

〔内訳〕	
1. 人に係るコスト 14.2億円 職員の給与・退職手当など	
2. 物に係るコスト 32.0億円 物品、修繕費、減価償却費など	
3. 移転支的的なコスト 45.3億円 社会保障給付、補助金など	
4. その他のコスト 2.4億円 町債の利子など	

経常収益(B) 2.9億円

使用料、手数料、分担金など

純経常行政コスト (A)-(B) 91.0億円

経常行政コストから、経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。

# 平成22年度 世羅町財務書類の概要（連結ベース）

普通会計のみ財務書類を作成したのでは、世羅町全体の財務状況を把握できません。町には普通会計のほかにも、国民健康保険事業などの特別会計や水道などの公営企業会計があります。また、世羅町が自ら行う事業とは別に、町が加入している一部事務組合・広域連合、町が出資している団体もあります。これらを一つの行政サービス実施主体とみなし、作成した財務書類を「連結財務書類」といいます。

## 【世羅町の連結範囲】

連結

町全体	国民健康保険事業特別会計	水道事業会計
普通会計	老人保健事業特別会計	簡易水道事業会計
一般会計	後期高齢者医療制度特別会計	公共下水道事業会計
	介護保険事業特別会計	
	介護サービス事業特別会計	
	農業集落排水事業特別会計	
甲世衛生組合	広島県市町総合事務組合	
世羅三原斎場組合	広島県後期高齢者医療広域連合	
広島中部台地土地改良施設管理組合		
世羅中央病院企業団	㈱セラアグリパーク	
三原広域市町村圏事務組合		

連結財務書類から、次のことが分かりました。

町民1人当たりの資産は401万4千円、負債は146万4千円  
町民1人当たりの経常行政コストは98万5千円

平成22年度末住民基本台帳人口 17,984人  
平成21年度は連結ベースの財務書類を作成していないため、比較していません。

### 貸借対照表

連結の対象となる各会計、各団体を一つの行政サービス実施主体とみなして、世羅町全体の土地や建物、資金などの資産の所有状況や、資産を得るための負債の状況を計上しています。

<b>資産 721.8億円</b>	<b>負債 263.3億円</b>
町の所有財産の内容と金額 〔内訳〕	各会計、各団体の借入金や 職員の退職金など将来の世 代が負担する金額
1. 公共資産 627.5億円 道路、学校、庁舎 上下水道など	
2. 投資等 34.5億円 基金、出資金、貸付金など	<b>純資産 458.5億円</b>
3. 流動資産 59.8億円 資金、未収金など (うち資金 54.2億円)	現在までの世代が既に負担 してきた金額

### 純資産変動計算書

連結ベースでの純資産（正味の資産）について、1年間の増減を示しています。

期首純資産残高	440.9億円
平成22年度変動額	17.6億円
〔内訳〕	
1. 純経常行政コスト	116.8億円
2. 経常収入	140.6億円
3. 臨時損益	2.4億円
4. その他	3.8億円
期末純資産残高	458.5億円

### 資金収支計算書

連結ベースでの1年間の現金の出入りを3つの活動区分に分け、整理したものです。

期首資金残高	48.3億円
平成22年度増減額	5.9億円
〔内訳〕	
1. 経常的収支	42.2億円
2. 公共資産整備収支	9.8億円
3. 投資・財務的収支	26.5億円
期末資金残高	54.2億円

### 行政コスト計算書

連結の対象となる各会計、各団体が1年間に提供する人的サービスや給付サービスに係る経費（コスト）と、そのサービスの直接の対価として得られた受益者負担を収益として整理したものです。

経常行政コスト(A)	177.2億円
〔内訳〕	
1. 人に係るコスト 22.8億円 職員の給与・退職手当など	
2. 物に係るコスト 51.0億円 物品、修繕費、減価償却費など	
3. 移転支的的なコスト 96.5億円 社会保障給付、補助金など	
4. その他のコスト 6.9億円 町債の利子など	
経常収益(B)	60.4億円
使用料、手数料、分担金など	
純経常行政コスト (A)-(B)	116.8億円
経常行政コストから、経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。	